



日本共産党 京都市議員
ひぐち英明
議会報告

みなさんのご意見・ご要望をお寄せください!

こんにちは ひぐち英明です

第412号 2022年3月1日 連絡先：日本共産党左京地区委員会 Tel761-6341
：左京生活相談所 Tel781-6622

HP:

市民の暮らしが厳しさを増している時に

2022年度 京都市予算案 **52億円もの痛み押し付け**



岩倉で行われた食料提供
&なんでも相談会に私も
相談員として参加

市民の暮らしの厳しさが一層増している中、京都市の2022年度予算案が議会に提案されました。

内容は、市民への大幅な負担増(25億円)と、暮らしを支えてきた制度の改

悪・補助金カット(27億円)のオンパレードで、市民への痛み押し付けの総額は52億円にも及びます。

25億円の市民負担増

- 国民健康保険料の値上げ 14億円
- 使用料・手数料の値上げ 11億7,000万円
 - ・ 学童利用料の値上げ
例えば年収300万円の世帯の8月の利用料(18時まで利用)：4,600円→13,000円に
 - ・ 敬老乗車証の負担金の値上げ
負担金が10月から2倍に
 - ・ 高齢者インフルエンザ予防接種の値上げ
一律1,500円
 - ・ ひと・まち交流館利用料の値上げ
第4会議室・夜間：無料→4,500円
 - ・ いきいき市民活動センター利用料の値上げ
100円/時→600円/時
など

27億円の補助金カット

- 民間保育園職員の給与底上げのための補助金：13億円の削減
 - ・ 国から新たに交付される保育士給与値上げのための予算5.9億円も現場に反映させない!
 - 重度障害者施設補助金：1.2億円の削減
 - 地域子育て支援センター「休止」：2,000万円の削減
 - 耐震リフォーム助成制度「休止」：2.4億円の削減
 - 省エネルギー支援補助金「休止」：3,000万円の削減
 - 伝統産業設備改修補助：2,000万円の削減
- そのほかにも福祉・中小業者支援・災害対策支援など、あらゆる分野の補助金をカット

200億円の収入増を活用し 命と暮らしを守るための支援の強化を

「京都市の財政が厳しいから、負担増は仕方がないのでは」と思っている方も多いと思います。しかし、「毎年500億円の財源不足」で「財政が破たん」との市長の説明は、全くのデタラメです。

今年度の財政収支の見込みでも、1年前の予算編成時よりも、収入が200億円も多くなることが発表されています。この200億円の収入増を活用すれば、左に紹介した52億円もの市民への痛み押し付けなど行う必要は全くありません。むしろ、命と暮らしを守るための支援を強化することができます。

かじかわ憲さんで府政の転換を



府知事選挙への出馬を表明しているかじかわ憲さん。「『一人の仕方がない』から『みんなで変える』」をモットーに、あらゆる市民運動のまとめ役として奮闘してきた方です。かじかわ憲さんで府民・市民のための政治をつくろうと、各地で宣伝。サポーター大募集中です。

○ ひぐち英明 ホット・コム ミニ版 ○

長女(大学4年)の看護師の国家試験が終わりました。この国家試験はマスコミでも大問題として報道されていましたが、コロナに感染したり、濃厚接触者になったりすると、試験が受けられなくなり、救済措置も何もないという、ひどいものです。

長女も1ヶ月くらいの間、感染しないように、誰にも会わず、ひたすら一人住みのアパートに缶詰状態で過ごしていたとのこと。ストレスがだいぶたまるようで、毎日のように妻に電話をしてくれていました。

試験会場は東京だったのですが、試験が終わり、ホッとしたようで、久しぶりに友達に会って楽しいひと時を過ごしたそうです。コロナで大学生活もままならない中、がんばってきたのですから、無事合格していることを願うばかりです。